



万屋(まんや)※方言名: マニヤ

笠利町の東側に位置し、貴重な遺跡もあり伝統が息づく万屋集落。集落の背後には広々としたさとうきび畑が広がっています。旧暦1月2日に、大工の家で新築・改装してもらった人が集まって家運長久を祈願した「大工祝い」という風習も残っています。

1 万屋ナーゴ墓地

万屋墓地は集落東側の小高い砂丘地に位置している。墓石は五輪塔、山川石、加治木石、珊瑚石による墓石や石囲いの墓が残され、ある程度整然としている。昔は海岸砂丘のヤンシロにあったが現在のナーゴ墓地に移動した。墓石には江戸期の9代英智(喜志統親方系)をはじめ、古い墓石も多く残っている。

3 万屋グスク

万屋グスクは平成8(1996)年に発掘調査が行われた。遺跡の西側から13世紀頃の周囲にサンゴ石が敷かれた池の遺跡が出土し、庭園を持つ知的有力者が奄美に現れたことを意味する。東側は小高くなり、建物の柱穴が多数発見されている。さらに東側からは溝や人骨、青磁、類須恵器などが出土し、当時の華やかさが感じられる。

5 ミーチヂ

万屋集落はウシロ、マエ、ナガタに大きく区分され、城跡や聖地的な場所は万屋グスク、ナガタ、ヤンシロ、ミーチヂがあげられている。ミーチヂは旧9月9日にミキモリが行われ、ミキ(発酵食品)を神前に供えて家内の安全を祈る。近くにはウヌヤ(屋敷地)やカミミチと防空壕2か所が残っている。

7 万屋の八月踊り

万屋の八月踊りはヤンシロ付近で打ち出しを始める。以前は一軒一軒家を廻り踊った。現在はアラセツ、シバサシにカネサル(種下ろし)を兼ねて1~8組の組毎の順で踊る。また(故)白内慶治氏の指導により後継者育成がされ、24曲の八月踊りと唄が子供会・集落の方々に受け継がれている。子供会では子供が中心になって組立てる種下ろしの集落行事もある。

2 万屋海岸



8 万屋トフル

万屋海岸は白い砂浜と発達したリーフに恵まれ、魚介類も多く、イショシャ(海人)が多かった。ナゴやヌズレバマ、シロハマがあり、ハマオレ行事で子供たちは宝探しなどをして遊んでいた。今は港公園と空港になっているが、海岸の一部がまだ残っており、懐かしい風景として残りたい宝である。

4 共同井戸

シマでは飲料水にする共同井戸が必ずある。万屋集落南側を流れるノシ川では生活用水として上流で野菜などを洗い、下流では洗濯をしていた。飲料水にはクシ井戸とマエ井戸などであった。集落内の道沿いにある井戸は現在使われなくなり、蓋が被されているが、生活の香りのする井戸である。

6 長浜金久遺跡群・下山田遺跡群・ケジ遺跡群

宇宿校区の海岸砂丘地には先史・古代からの時代を重層した遺跡が多く立地している。長浜金久遺跡群・下山田遺跡群・ケジ遺跡群はその代表的な遺跡で昭和57年から県文化財課によって発掘調査が行われている。砂丘形成と遺跡の形成時期などから自然環境も視野に入れた調査が行われた。

8 万屋トフル

万屋集落の家の配置は南限がノシ(野後)川より北側に限られていた。しかし、近年は川を越え奄美空港の北側、泉川あたりまで民家が広がっている。トフル墓は南側の畑に大きな饅頭型の森をなし、中にモーヤと甕棺に人骨が収められている。現在は使用されていないが、人骨は当時の時代を語る貴重な宝である。

